

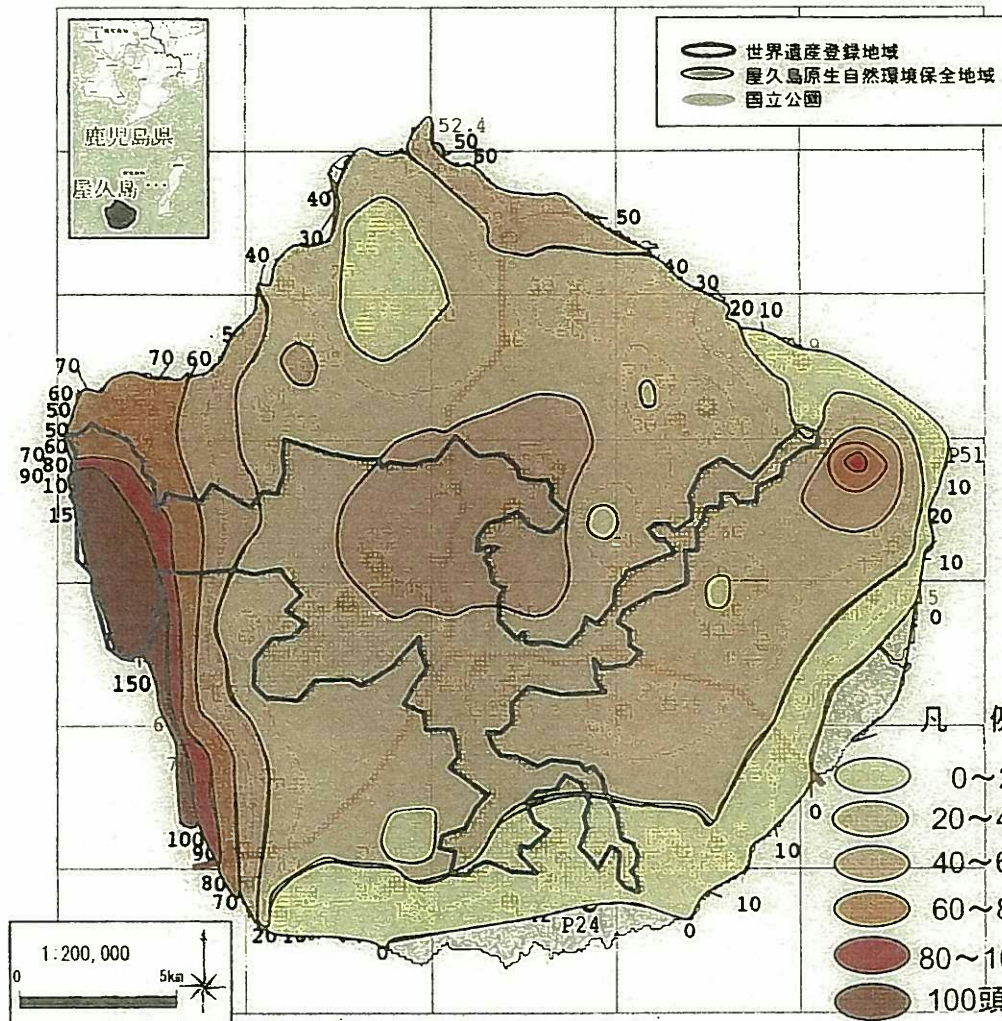
世界遺産地域における個体数調整方策の検討方向(案)

項 目	取 扱 検 討 方 向	備 考								
1 現状と当面の対応方向	<p>1 生息密度の現状 世界遺産地域においては、シカの密度は20頭程度以上の地域が8割程度を占める状況にある。(別紙参照) 一方、同地域においては、林道等を利用して、直接的に捕獲圧をかけることができる地域は、西部林道地域と愛子岳(小瀬田)地域等で、全体面積の1割程度にとどまっている。</p> <p>2 現時点で考えられる対応方向 ア 林道等から直接的な捕獲圧をかけることが可能な地域では捕獲努力を行う。 イ 世界遺産地域の隣接地域にある林道等においては、間接的な捕獲効果を期待し、捕獲努力を行う。 ウ 捕獲の効果、影響等をモニタリングしていく。 エ 林道等のない高標高域において、現時点では有効な捕獲圧をかける方策が見当たらない状況にあるが、同地域でもシカの生息密度がかなり高く、この低減を図る必要もあることから、今後、以下の事項について調査等を行い、高標高域での個体数調整方策を検討。 ① 高標高域におけるシカの移動状況 ② 冬季の移動先(越冬地)に関する情報の収集、分析 ③ 高標高地での捕獲圧(シャブシューティング等)の可能性(箇所、方法、コスト、効果等)</p>	<p>○世界遺産地域の密度別面積</p> <table border="0"> <tr> <td>20頭/km<sup>2</sup>程度以下</td> <td>2割程度</td> </tr> <tr> <td>20頭/km<sup>2</sup>程度以上</td> <td>8割程度</td> </tr> <tr> <td>40頭/km<sup>2</sup>程度以上</td> <td>2割程度</td> </tr> <tr> <td>80頭/km<sup>2</sup>程度以上</td> <td>1割未満</td> </tr> </table>	20頭/km <sup>2</sup> 程度以下	2割程度	20頭/km <sup>2</sup> 程度以上	8割程度	40頭/km <sup>2</sup> 程度以上	2割程度	80頭/km <sup>2</sup> 程度以上	1割未満
20頭/km <sup>2</sup> 程度以下	2割程度									
20頭/km <sup>2</sup> 程度以上	8割程度									
40頭/km <sup>2</sup> 程度以上	2割程度									
80頭/km <sup>2</sup> 程度以上	1割未満									
2 捕獲圧の可能性等からみた地域分け	<p>世界遺産地域について、捕獲圧の可能性、程度で区分すると以下に分けられる。</p> <p>ア 世界遺産地域内の林道等を活用して同地域内で捕獲圧をかけることができる地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西部林道地域</li> <li>・愛子岳(小瀬田)地域</li> </ul>	<p>→ 世界遺産地域(約11千ha)のうち、世界遺産地域内及び林道から直接的な捕獲圧をかけることができる地域の面積は全体の約1割</p> <p>→ 資料4-2(ヤクシカの捕獲圧が直接的に及ぶ範囲について(案)参照)</p>								

	<p>イ 世界遺産地域の隣接地域での捕獲圧が遺産地域へ直接的に影響することが考えられる地域（林道等から1 km程度の範囲の地域）</p> <p>地図の①の箇所 : 小瀬田林道      地図の②の箇所 : 安房林道（終点）      地図の③の箇所 : 荒川軌道      地図の④の箇所 : 尾之間の民有林林道      地図の⑤の箇所 :      地図の⑥の箇所 : 小揚枝林道（途中、終点）      地図の⑦の箇所 : 大川林道（途中、終点）      地図の⑧の箇所 : 西部林道、N T T管理道（カンケケ岳）      地図の⑨の箇所 : 宮之浦林道（終点）      地図の⑩の箇所 : 神之川林道（終点）、白谷林道（終点）</p> <p>ウ 越冬地が林道等の近いところにある地域</p> <p>エ シャープシューティング等により捕獲圧をかけることができる箇所</p> <p>オ 上記以外の捕獲圧が直接、間接ともかけることができない地域</p>	<p>→ 今後、越冬状況等の情報を踏まえ、検討する必要あり。</p> <p>→ ヤクシカは、積雪深さ40 cm以上では見かけることはなく、そのような地から積雪の少ない低標高地へ移動していることから、冬季の移動先（越冬地）の探り出しにあたる必要。      → 冬季の積雪情報の収集、分析      別添 4（屋久島地域における積雪写真）参照</p> <p>→ シャープシューティング等により捕獲圧をかけることができる箇所を調査する必要</p>
<p>3 捕獲方法</p>	<p>1 林道周辺（上記ア、イ、ウ）      現在、林道等を利用し、くくり罠、箱罠、銃猟によりシカの捕獲が行われている。      捕獲柵については、九州森林管理局において試行を予定。</p> <p>2 奥山地域（林道から時間をかけて登る必要のある地域）（上記エ）      (1) 銃を使用した捕獲      ア ライフル銃      イ 空気銃      空気銃は、射撃音による他の個体への攪乱がなく捕獲効率が高い。      空気銃の威力は、プリチャージ（圧縮空気・エア充填式）（威力大）</p>	<p>→ 捕獲効率の向上と有効な捕獲戦略の検討が必要。</p> <p>→ 給餌方法、場所等具体的な捕獲方法の検討が必要</p> <p>→ 同上。殺傷限界（使用する銃の威力、射程距離、使用する弾など）の確認が必要。</p>

	<p>&gt;ポンピング (ポンプ・蓄気) 式 (威力中) &gt; スプリング式 (威力弱) となる。</p> <p>(2) 候補地          地形的には、①花之江河、②焼野三叉路、③鹿の沢が上げられるか。</p>	<p>→ 捕獲柵については、資材運搬、給餌、捕獲効果等があり、適用困難でないか。</p> <p>→ 今後、現地調査を行い、その可能性を検討する必要。</p>
<p>4 その他の課題等</p>	<p>1 捕獲個体の処理等          地形・地質等により埋設が困難な場合が生じるが、同一箇所的大量に継続的に処理しなければ、生態学的には自然に帰すことになり問題はないと考えられる。</p> <p>2 従事可能な狩猟者の確保と人材の育成 (担い手対策、動物の行動・生態への精通者)</p> <p>3 登山者等への安全確保対策          登山者等への広報・周知、現地対応等を通じた安全確保対策。</p> <p>4 必要な予算の確保</p>	

# ヤクシカ密度空間ポテンシャル



生息密度を下げる必要のある  
地域の面積(概算)

○世界遺産地域

- 20頭/km<sup>2</sup>程度以下 : 2割程度
- 20頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 8割程度
- 40頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 2割程度
- 80頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 1割未満

○全島レベル

- 20頭/km<sup>2</sup>程度以下 : 1割未満
- 20頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 9割以上
- 40頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 4割程度
- 80頭/km<sup>2</sup>程度以上 : 1割程度

凡 例

- 0~20頭/km<sup>2</sup>
- 20~40頭/km<sup>2</sup>
- 40~60頭/km<sup>2</sup>
- 60~80頭/km<sup>2</sup>
- 80~100頭/km<sup>2</sup>
- 100頭~/km<sup>2</sup>

◎、20年度調査、●、平成21年度調査、●、幸田良介・揚妻直樹・辻野亮・揚妻一柳原芳美・眞々部貴之(印刷中)屋久島全島における糞塊を用いたヤクシカの生息密度分布と全頭数推定。財団法人日本自然保護協会編「屋久島世界遺産地域における自然環境の動態把握と保全管理手法に関する調査報告書」より。著者らのご厚意により元データから地図上に乗せたもの。

3地域の境界域は、矢原教授による資料よりインポーズした。



別 添

屋久島奥岳における積雪写真



1996年2月7日(JERS-1/OPS観測)



1993年3月18日(JERS-1/OPS観測)



屋久島における積雪状況 (2005. 12. 20 (空撮))



宮之浦岳 (標高1,936m)



奥岳山岳部 (黒味岳～宮之浦岳)



白谷林道220支線 (旧17支線)

林道終点の標高1,000m  
(奥正面峠1,200mライン)

冬季・厳冬期は路面凍結で通行不能



安房川支流の荒川ダム (標高600m)  
左手奥に雪景の愛子岳 (標高1,235m)



宮之浦川沿いの宮之浦林道 (標高200mライン)  
奥正面の稜線の標高800mライン